

ありがたい

千眼寺住職 神田秀孝

第十八教区護持会報「輪」より
—令和二年十二月発行—

十月もあつという間に後半、新米のシーズンを迎え、ますます食が進む今日この頃です。実りの秋ということ、皆さんの食卓にも秋の味覚があがっているのではないのでしょうか。檀家様のご自宅での読経にお伺いしていますと、壇上のお供え物（果物やお花など）からも季節の移ろいを感じているところです。

さて、現下の状況により、今年は大勢の人が集まるイベントなどが中止、延期となり、寺院に於いても恒規法要や教区護持会の集まり、秋の研修旅行等も中止となつてしまいい、毎年当たり前のように行っていた行事、当たり前のようにできていたこと、それらができない日々が続いていました。当たり前といま

たが、仏教的には「当たり前」などというものは何もなく、「有り難し」と書くように、何か有るといふことは「ありがたい」ことでもあります。日々の生活の中で手を合わせ、合掌する場面、仏様をお参りするときに、「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」での合掌が思い出されるかと思えます。「平常心是道」という言葉があり、日常生活そのもの、当たり前と思つていた一つ一つのことが道であり、大事にしなくてはいいことですね。



千眼寺本堂

何かと慌ただしい一年もあと少しとなりました。

「雲静日月正」（雲静かにして日月正し）雲は静かに流れ、自然は一日一日正しく過ぎていきます。有り難く、大事に、和やかに過ごしていきましょう。

▼広蔵寺住職より

二男秀孝は十二歳の時に長男、三男と三人一緒に広蔵寺で私の得度を受ける。修学は北海道駒澤大学付属岩見沢高校仏教専修科、駒澤大学仏教学部



左から二男、長男、三男

と進み、大学生の時に村上七湊・海蔵寺小島正人師晋山結制に於いて首座を務める。大学卒業後、大本山永平寺で三年修行、群馬県沼田市迦葉山弥勒寺（住職・現大本山永平寺副貫首羽仁素道老師）で一年ほどお寺の勉強をし、ご縁をいただき村上市平林・千眼寺住職山本宗彦老師の嗣法を受け副

住職となる。山本宗彦老師遷化により、平成二十七年晋山結制を修行し二十五世住職となり現在に至っている。

十八教区には三男恭真（土沢雲泉寺）、法類寺院（上鍛冶金蔵寺、春木山西法寺、荒島東岸寺）があり何かにつけご支援をいただいている。同じく得度した兄弟三人、人々の苦しみ悲しみに寄り添い、安らぎをもたらすように尽力してもらいたい。

庫裏玄関脇トイレ改修

当寺は五十年前までは地下水を汲み上げ、台所、お風呂、洗面所等の生活用水としていました。その後上水道に切り替えましたが、トイレの配管がむき出しになっていて冬場は凍結により使用不可能の状態になることが頻繁でした。この度の工事により使い勝手も良いものとなりました。尚、地下水は現在、冬場の消雪用として参道本堂、位牌堂前にパイプ敷設してあります。また、お墓水汲み場にも使用しています。

施工 小野組様